



# 福武電鐵南越鐵道沿線名所圖繪

福武電鐵及南越鐵道沿線名所圖繪

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO



本図は珍しく福武電気鉄道と南越鉄道の両社が共同で吉田初三郎に鳥瞰図作成を依頼し、昭和八年初秋に刊行されたもので、ともに福井鉄道の前身の会社沿線名所図絵である。

簡単に鉄道史を振り返ると、南越鉄道は明治四十五年に創業した武岡軽便鉄道に始まり、大正七年に武岡鉄道、大正十三年に南越鉄道と改称。

その後、大正十年に設立した福武電気鉄道と昭和十六年に合併し、南越鉄道は解散する。昭和二十年には福武電気鉄道と鯖浦電気鉄道とが合併し、福井鉄道が設立された。

南越鉄道の新武生―戸ノ口間、十四・三kmは、福井鉄道南越線として親しまれていたが、昭和五十六年に全廃。福武電気鉄道の武生新（現・越前武生）―福井間は、その後の田原町までの延伸を加えた二十一・四kmを福武線として営業、今に引き継がれている。図中には、鯖浦電気鉄道の鯖江―織田間

藤本一美

首都大学東京非常勤講師。日本国際地図学会会員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学Ⅱ」（私家版2006年）、最新刊に「展望の山50選 関東編」（東京新聞出版局）がある。



【福武電鉄南越鉄道沿線名所図絵  
【福武電鉄及南越鉄道沿線名所図絵】

(昭和8 (1933) 年初秋)  
福武電気鉄道株式会社・南越鉄道株式会社発行  
京都市内の観光社出版部 印刷

福井鉄道株式会社  
Fukui Railway Co., Ltd.  
設立：昭和20年8月1日  
本社：福井県越前市北府2-5-20



鉄道と軌道がつながる珍しい路線、  
福井県の3市を結ぶ。

「ふくてつ」の愛称で親しまれる福井鉄道。18.1kmの鉄道と3.3kmの軌道がつながる全21.4kmの路線で、越前武生―田原町間を約1時間で結んでいる。平成18年に低床型車両を導入し、平成22年3月には13年ぶりの新駅を開業。翌23年にも2駅を開業し、現在は、25駅を1日に上下線107本のダイヤで運行している。鉄道と軌道を同じ車両で走る鉄道は珍しく、越前市・鯖江市・福井市の3市を結ぶ地元密着型の鉄道として、地元住民に利用されている。



十九・二km、後の福井鉄道鯖浦線も表示しているが、昭和四十八年に全廃している。

もうひとつ、注目したいのは図の中央部、南越鉄道の岡本新駅だ。スイッチバック駅として表現されており、嬉しくなる。

全体の構図は、日本海上空から東方陸側を描画し、信仰で知られている白山や部子山を遠くに配置。ゆつたりとした九頭竜川水系の流れは水色で、身近な聖域の山々、例えば文殊山、行司嶽、権現山、日野山、村国山などは群青色で彩色して神々しさを描出。断崖絶壁の東尋坊や寺社仏閣の永平寺、専照寺、藤島神社、誠照寺、岡太神社、国分寺など、他にも武生の駅舎や鉄道会社の社屋などを立体的絵図としてはめ込み、巧みに表現している。寺中鉱泉、上河内鉱泉には湯煙がのぼり、旅情を誘うほどだ。

両端に北海道や樺太、釜山や富士山、日本ラインを描出するのも、初三郎お得意の技法といえるだろう。

今回は、紅(黄)葉は一箇所、冬の白雪のスキー場は二箇所のみで控え目にしていて、春のピンクの桜に重点を置く明るい画面を演出している。電車やバスが走行しているのも楽しいことは言うまでもない。